

若手研究者と育児ワーキンググループの展望

お茶の水女子大学大学院博士後期課程、COE 研究員
三村 恭子

若手研究者ジェンダー・スタディーズ・ネットワーク (JSGS-Net) が基盤としている COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」(F-GENS) は、2008 年 3 月をもって終了する。それにともない、JSGS-Net、および、その分科会である若手研究者と育児ワーキンググループ (以下、WG) の存続についてもこれから協議されていくことになるだろう。つまり本 WG は、2008 年 4 月以降も JSGS-Net の分科会であり続けるか否かを含め、今後大きな転機を迎えることになる。現時点では、残念ながら本 WG は来年度以降も活動をサポートしていけるような外部予算を獲得できていないが、これからもあらゆる手段を通じて可能な限り活動を継続していくつもりである。

そこで、今まで実施してきた活動内容 (詳しくは、「JSGS-Net 若手研究者と育児ワーキンググループのあゆみ」(13 頁〜) をご参照いただきたい) を踏まえ、今後の活動計画を以下に簡単に示しておきたい。ご関心を持たれた読者のかたには、ぜひ末尾に記した連絡先へお問い合わせいただければ幸いである。

勉強会・ワークショップの開催

今後も、メーリングリストや勉強会での情報交換や議論を継続しつつ、育児の現状を知る機会を設け、育児に対する関わりかたが異なるメンバー間の対話を積極的に促していく予定である。その際、過去に行なったいずみナーサリーの現状についての勉強会を発展させ、さらに学内保育に関する情報収集に努めていきたい。また、新たに、日本学術振興会の「特別研究員-RPD」(出産・育児による研究の中断を経験した研究者を対象とした支援制度) について、あるいは高齢者介護の議論とのつながりにおいて育児をとらえやすいような勉強会あるいはワークショップ的な集まりを開くことも視野に入れている。

上記のようなイベントを開催する場所は、「JSGS-Net 若手研究者と育児ワーキンググループのあゆみ」でも触れているように、現在のところ、小さな子どもや妊婦には不適當な学内会議室であることが通常である。そこで、子ども連れでも妊娠中でも気軽に参加できるよう、日時の設定のみならず、開催しやすい場所を模索しようと考えている。たとえば、お茶の水女子大学構内に限定するならば、本学学生が課外活動などで使用する学生会館に和室が設けられている。ここが本 WG の勉強会やイベントに (あるいは、小規模な研究会の会場や託児用の場所として) 使用可能であるかどうかを検討し、場合によっては大学に要望を提示する必要があるだろう。このような身近なところから着実に成果を出すことを目指す。

情報収集と発信

本冊子では、本学学長の郷通子先生のお話を掲載させていただいたが、今回は時間など

の制約のため、郷先生の豊富なご経験のうち、ほんの一端しかお伺いすることができなかった。ぜひ、また別の機会に、郷先生からより詳しいお話をいただければと思わずにはいられない。そして、ほかにも学内の先生がたを中心に、育児と研究活動の両立についてのインタビューを継続していき、多様なロールモデルを得るとともに、発信していこうと考える。

そのほか、F-GENS 以外のプログラムや学会による、本学学内での託児サービス実施についての情報を収集したり、他方、サービス提供側の企業に学内託児サービスの現状について問い合わせるなどをして、託児サービス実施の実現可能性を高くするためのノウハウの蓄積・発信へつなげていきたい。なお、その発信の媒体は、本冊子のような実践と理論を兼ね備えた形式であるように努める。というのも本 WG のスタンスとして、実践面での情報提示に限定することなく、あくまでもジェンダー研究として「育児」を様々な角度から掘り下げる理論的アプローチの側面も保持しつづけたいからである。

メンバー間のコミュニケーションの促進

メーリングリスト上でのつながりを確保しつつ、さらに密なコミュニケーションを可能とするため、WG のインターネット上のプラットフォームとして、SNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス）を現在準備中である。これは、妊娠中であったり、産後であったり、あるいは子どもが病床にあっても気軽にやりとりができることの重要性を認識したうえで、試験的に着手しようとした試みである。現在中心的に利用しているメーリングリストは、情報の伝達や議論には適しているが、よりミクロなレベルでのやり取り——例えば、特定のトピックに関心を寄せるもの同士の頻繁な会話や、スケジュール・資料の蓄積および共有のためには、多少使いづらい媒体である。この側面を強化するため、そしてメンバー間の「つながり」の感覚や、それによって得られる安心や信頼をさらに高めるため、今後試行錯誤していきたい。まずは、スケジュールや資料の共有などの基本的なやりとりや、より実践的な側面では学生や若手研究者間の子どもの古着や育児用品の譲渡といったやりとりの媒体としてどれだけ機能させられるかを試していく予定である。

以上の活動計画は、いずれもさまざまな場面で WG のメンバーから出た意見を基にしたものであり、小規模なボランティアベースの本 WG においても実現可能性が比較的高いものだと考える。これらを実際にクオリティの高い研究・実践として推進していくには、多分にメンバー各人の意識の高さや熱意が必要となるにちがいない。ちなみに、これまで WG メンバーは、JSGS-Net のメンバー、あるいは何らかの形でお茶の水女子大学もしくは F-GENS に関わりのある若手研究者のうち、「育児」をキーワードとした本 WG の活動趣旨に賛同するもの、としてきたが、こうした規定についても今後はオープンにしていく可能性を視野に入れている。

以上、今後の展望を述べてきた。本 WG を今後も発展させていくにあたって、この冊子を手にとったより多くの方々から、さまざまなご意見・ご助言をいただければ幸甚である。

今後展開予定の SNS : <http://wakateikuji.so-netsns.jp>

連絡用のメールアドレス : wakateikuji@yahoo.co.jp